

トマト100キロ被災地へ山

愛媛大院生心込め収穫 松

東日本大震災の被災者を支援しようと愛媛大は8日、農学部の研究センター(松山市樽味3丁目)で生産したトマト約100キロを宮城県気仙沼市に発送した。11日に現地でボランティア活動を行う関東愛媛県人会員らが、同市沖合の大島で住民に配る。

大島では、愛媛大卒業生の岡本竜太郎さん(38)や横浜市が代表を務める県人会災害ボランティア部が、がれ



東日本大震災被災地に送るトマトを収穫する愛媛大農学部の大学院生たち

きの撤去や炊き出しなどを継続的に実施。活動を知った大学職員がトマト寄贈を提案した。

愛媛大によると、研究センターでは毎週、トマト約400キロを収穫。一部販売などとしており、しっかりとした肉質が好評という。

7日は農学部大学院生らが摘み取り作業をした。大学院1年の内藤篤志さん(22)は「被災地でも喜んでもらえると思う。震災後の農業復興に安定供給できる施設園芸への期待が高まっており、役立てるよう研究も頑張りたい」と話した。

現地では県人会員らの寄付金で購入したミカンやボンカン計55箱も島民に配る。岡本さんは「がれき撤去は進んだが、被災者の心のケアが必要。ミカンやトマトを配りながら声を掛け、少しでも元氣

になってもらいたい」と話している。

(杉本賢司)